

『今日は、庚申塔のお話でまっすん。忍野村の庚申塔については、忍野村史に詳しく書かれているのでまっすん。その中でも、忍草浅間神社境内にある庚申供養塔だけに、三猿が描かれているのでまっすん。庚申塔と言っても、様々な形があるでまっすん。』

『クニマッスンは、よく調べているんじゃな。村史には、忍野村の歴史が詰まっているんじゃが、なかなか手にする機会は少ないからのう・・・しかし、村史の編纂に関わった人々のご苦労は、言葉で言い尽くせぬものであったと思うんじゃよ。是非、興味感心を持って読んでもらいたい。さて、村史に書かれている庚申塔は、「庚申塔」と「庚申供養塔」と表記されているんじゃが、その区別について今となっては分からないことが多いんじゃ。しかし、忍草にある庚申塔には、三組共有とか五組共有と書かれていことから想像すると、庚申信仰は、各組ごとに集まって庚申待の信仰がされていたんじゃろう。忍野村と言っても内野の庚申塔は、「青面金剛（しょうめんこんごう）庚申塔」があるんじゃよ。庚申信仰の広まりを想像すると興味深いのう。』

『おいら、「青面金剛」についても、調べたでまっすん。青面金剛は、夜叉神で、庚申信仰の中で独自に発展した尊像だったでまっすん。庚申講の本尊として三尸を押さえる神でまっすん。』

『本当に感心じゃな。忍草にある庚申塔は三基でな、横町四つ角に五組共有という「庚申供養塔」年号は1772年に建立。忍草浅間神社境内に庚申待中六組共有「庚申供養塔」年号は1716年に建立。恵比寿屋東に三組共有「庚申神」年号は1840年に建立されておるんじゃよ。内野にも三基あってな、窪町安養軒前に講中建之、寄進者の名前があつて「庚申塔」年号は文政六とあるから1824年に建立。古屋に古屋町内共有「青面金剛庚申塔」年号は1746年に建立。上町法印家屋敷東北隅に上町町内共有「青面金剛庚申塔」年号は不明なんじゃ。このように年号を見ると、内野の庚申信仰は忍草より後だったようじゃ。現在の忍野村も広くはないからのう、昔、忍草村と内野村に分かれていたとしても信仰の伝わる年代が違っていることは、面白いのう・・・』

『現代は、科学が発達し、人間の思いのままになるような錯覚を起こしてしまう傾向にあるけれど、どれほど便利な世の中になっても、思い通りに生きることはできないでまっすん。昔の人が神や仏を敬ったのは、それを

分かっていたからでまっすん。』

『そうかもしれんな。次回は、忍野村にある石碑や石造物の話をしよつかのう。日本各地には、様々な石碑や石造物が建立されているんじゃが、建立された年号を見ると新発見があるかもしれんぞ。まずは、忍野村にある石碑と石造物を見ることにしようかのう・・・』

『とても楽しみでまっすん。おいらも、予習しておくでまっすん。』

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でまっすん・・・



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳

職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)